

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

小児感染免疫 (2004.07) 16巻2号:156～158.

Chlamydia trachomatis感染後にFitz-Hugh-Curtis症候群を呈した15歳女子の1例

大島美保, 岡 敏明

原著

Chlamydia trachomatis 感染後に Fitz-Hugh-Curtis 症候群を呈した 15 歳女子の 1 例*

大島 美保¹⁾ 岡 敏明¹⁾

要旨 性感染症が腹腔内に波及し肝周囲炎を生じた病態が Fitz-Hugh-Curtis 症候群であり、その主要原因菌は *Chlamydia trachomatis* である。今回本症候群と診断しえた 15 歳女子例を報告した。下腹部・右側腹部痛、発熱が遷延した後に体動時に鋭い右季肋部痛が出現するようになった。炎症反応高値を呈し、腹部エコー検査で肝周囲に異常所見は得られなかったがダグラス窩に腹水貯留を認めた。子宮頸管擦過物の *Chlamydia* 抗原と *C. trachomatis* RNA が陽性で、血清 *C. trachomatis* IgG, IgA が高値であった。*Chlamydia* 感染の証明および臨床経過、治療反応性から本症候群と診断した。思春期の右季肋部痛の鑑別疾患として本症候群を考慮する必要がある。

はじめに

Fitz-Hugh-Curtis (FHC) 症候群は骨盤内炎症性疾患の骨盤外病変で、腹壁や横隔膜と肝被膜との間の癒着を特徴とする肝周囲炎をいう^{1,2)}。その病原体は性感染症を起こす淋菌であると考えられてきたが、*Chlamydia* の診断技術が確立した 1980 年代からは、*Chlamydia trachomatis* (*C. trachomatis*) が主体を占めるとされるようになった³⁾。

我々は 15 歳女子例で本症候群と診断した例を経験したので報告する。

I. 症 例

〔患者〕 15 歳、中学 3 年生の女子
 月経歴：初潮 10 歳、25 日周期、7 日間。
 現病歴：2001 年 11 月、軽度の腹痛が徐々に増

強し同時期から便秘がちとなった。痛みは下腹部から次第に右側腹部に向かう突っ張るような腹痛へと進展し、第 8 病日からは 38°C 前後の発熱がみられるようになった。この間、近医（小児科および外科）で血液や画像検査を受けたが異常は指摘されなかった。その後も症状が持続するため、第 11 病日、当科を初診し入院した。最終月経は症状が出現する数日前から始まった。

入院時現症：身長 157 cm、体重 54 kg、体温 37.5°C、顔色良好。下腹部は膨満し右側腹部～下腹部にかけて圧痛を認めたが、McBurney など腹膜刺激所見はなかった。腸雑音は減弱していた。

入院時検査成績：白血球数 11,000/ μ l (neut 79.5%, lym 12.9%), CRP 10.6 mg/dl、赤沈値 (55 mm/時間) といずれも亢進していた。腹部超音波検査では上行～S 状結腸にかけて大便が充満し、骨盤腔は腸管ガスのため検索は十分にはでき

* A 15-year-old girl with Fitz-Hugh-Curtis syndrome caused by *Chlamydia trachomatis* infection

Key words : *Chlamydia trachomatis*, 性感染症, 肝周囲炎, Fitz-Hugh-Curtis 症候群, 小児

1) 札幌徳洲会病院小児科 Miho Oshima, Toshiaki Oka

〔〒 003-0021 札幌市白石区栄通 18 丁目 4-10〕

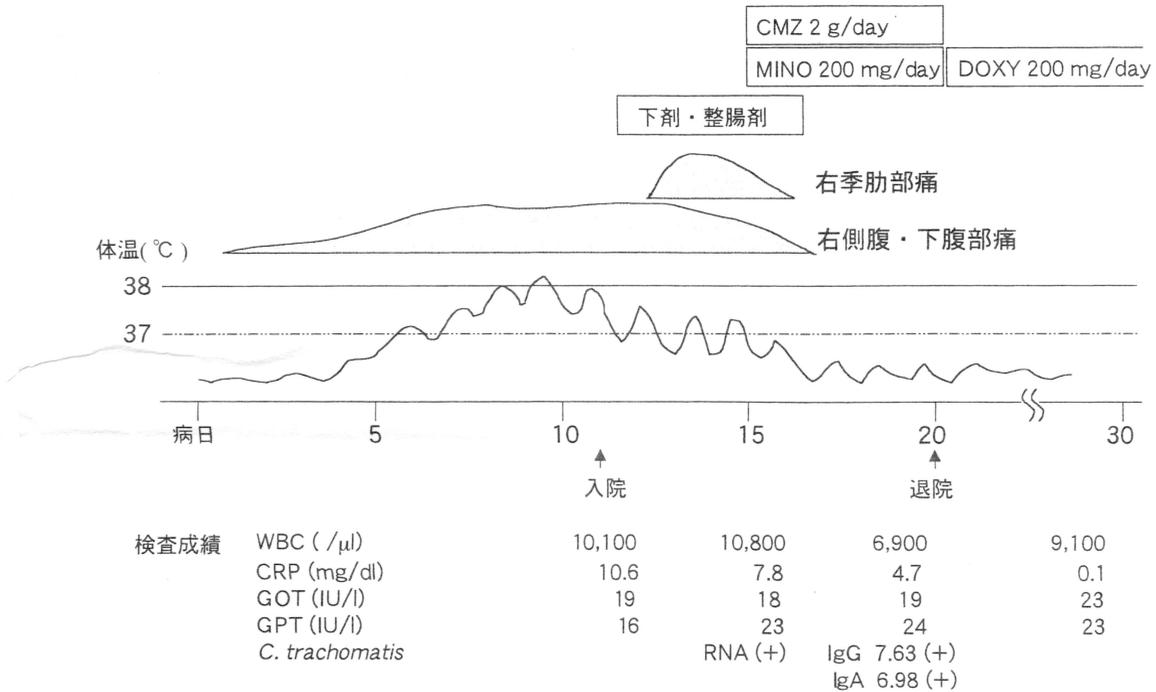


図 1 臨床経過図

なかった。肝・胆・脾・腎には異常はなく、肝被膜の肥厚や肝・腎周囲の腹水貯留などは認めなかった。

臨床経過 (図 1)：センナ 2g/日、酪酸菌錠 60mg/日を内服させたところ、翌日から腹痛は右季肋部に拡がり、笑った時や体をひねった時に増強した。しかし胸部 X 線像、腹部・骨盤腔 CT では明らかな異常所見を認めなかった。また便通が改善した後も発熱、下腹部痛、右季肋部痛は持続したため、産婦人科に診察を依頼した。ここでは骨盤腔超音波検査でダグラス窩に軽度の腹水貯留を認め (図 2)、子宮頸管擦過物迅速検査で Chlamydia 抗原陽性が証明された。さらに 4 カ月ほど前から複数人の男子と性交渉歴のあることが判明し、Chlamydia 性感染症 (STD) と診断した。また画像検査で肝周囲の異常所見は認めなかったが、右季肋部の特徴的な腹痛や臨床経過、ダグラス窩の腹水所見から STD が骨盤内感染に進展し FHC 症候群を呈したと判断した。淋菌などとの混合感染の存在も考慮し、第 15 病日からミノサイクリン 200mg/日、セフメタゾール 2g/日の静脈内投与を開始したところ症状は著しく改善した。

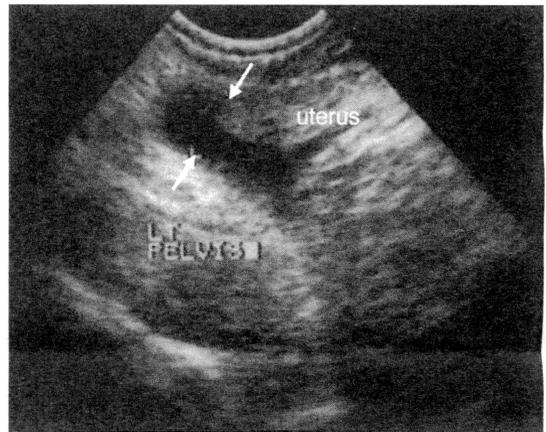


図 2 骨盤腔超音波像
子宮背面に軽度の腹水貯留を認める (矢印)。

さらに後に、子宮頸管擦過物の *C. trachomatis* RNA (核酸 hybridization 法) 陽性、血清 *C. trachomatis* 抗体 (ELISA 法) は、IgG 7.63 (正常値 0.90 未満)、IgA 6.98 (正常値 0.90 未満) 高値と淋菌 RNA 陰性が判明した。第 20 病日からドキシサイクリン 200mg/日内服に変更し STD 予防の指導を行い退院した。

II. 考 察

FHC 症候群は婦人科領域では一般的な疾患である。性的活動期にある若い女性を中心に発生し報告も多い。FHC 症候群は性交渉で感染した病原体が腹腔内に侵入しさらに肝周囲炎に進展するもので、呼吸や体動で増強する右季肋部の鋭い痛みが特徴とされる。

FHC 症候群の診断は、正確には腹腔鏡による肝周囲の炎症や線維性癒着の存在の確認と、肝被膜からの病原体の証明が必要である。治療はテトラサイクリンやマクロライド系抗菌薬の2週間内服が原則とされている。急性炎症の強い場合や若い女性には腹腔鏡は使い難いこともあり、実地臨床の場では、問診、臨床経過、*C. trachomatis* の病原体、血清抗体からの感染の証明、治療効果だけから本症候群を診断してもあながち誤りとはいえない⁴⁾。本症においても腹腔鏡検査は行っておらず、肝周囲炎の証明はできなかったが、右季肋部の特徴的な腹痛と治療効果から推定した。

一般に右季肋部痛の鑑別診断には腹部超音波検査が有用である。FHC 症候群では肝周囲炎の存在により肝被膜の肥厚や肝腎周囲の腹水の検出、右傍腎組織の炎症性肥厚による輝度の増強が認められることがあり診断に有用とされる⁵⁾。しかし、病初期ではその検出は必ずしも容易ではないと思われ、本症例においても特徴的な所見は得られなかった。一方、ダグラス窩の腹水は下腹部症状の乏しい FHC 症候群でも報告されており^{6,7)}、原因不明の右季肋部痛の鑑別には骨盤内感染の有無に関しても十分な検索が必要である。

FHC 症候群は STD に続発するものであるが、右季肋部痛で発症したり激しい疼痛のため、婦人

科以外の科や救急外来を初診する例も多く、右季肋部痛をきたす疾患の重要な鑑別疾患として内科・外科領域での報告が増加している。一方、STD の頻度が少ない小児領域では報告例も少なく⁸⁾、本邦での報告は1例にすぎない⁹⁾。

一般小児科外来では STD を経験する機会はまだであるが、小児を取り巻く環境の多様化に伴い初交年齢が低下している今日では、小児科医も STD の鑑別を考慮しなければならない。Chlamydia による STD は成人女性に比べ思春期女子では骨盤内感染に進展しやすい¹⁰⁾、思春期の右季肋部痛の鑑別疾患として FHC 症候群を認識するとともに、問診や検査には STD を考慮に入れた慎重な対応が必要である。

(診断・治療に御助言をいただきました、札幌徳洲会病院産婦人科 関 敏雄先生、野呂紀子先生に深謝いたします。)

文 献

- 1) Curtis AH : JAMA 94 : 1221-1222, 1930
- 2) Fitz-Hugh T : JAMA 102 : 2094-2096, 1934
- 3) Paavonen J, et al : J Infect Dis 144 : 176, 1981
- 4) 菅生元康, 他 : 日産婦会誌 39 : 1675-1678, 1987
- 5) von Dongen PWJ : Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol 50 : 159-162, 1993
- 6) Dinerman LM, et al : Clin Pediatr 29 : 532-535, 1990
- 7) 杉山 肇, 他 : 感染症学雑誌 69 : 320-323, 1995
- 8) Katzman DK, et al : Amer J Dis Child 142 : 996-998, 1988
- 9) 立野佳子, 他 : 小児科臨床 55 : 1927-1930, 2002
- 10) Washington AE, et al : J Adolesc Health Care 6 : 298-310, 1985

(受付：2003年9月10日，受理：2004年3月17日)

* * *